

→ 小児がんの子どもたちを救おうと 全国から医療の専門家が結集しました



©かとうゆーこ

第 20 号
発行日 2021 年 10 月 20 日
NPO 法人
日本小児がん研究グループ
JCCG 発行



9月9日 東京スカイツリー®

日本初開催！ 9月の夜空をゴールドに ～ 世界小児がん啓発キャンペーン ～



JCCGは今年9月、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント「ゴールドセプテンバーキャンペーン」(Global Gold September Campaign)を、日本で初めて開催しました。北海道から鹿児島まで全国15か所の名所にゴールドライトが灯り、各地では点灯式や啓発イベントも行われました。

以下2か所は緊急事態宣言の影響で中止となりました。

- ⑯福岡：博多ポートタワー
- ⑰福岡：赤煉瓦文化館

- ⑫福岡：小倉城
- ⑬佐賀：佐賀メディカルセンタービル
- ⑭長崎：稲佐山山頂電波塔3塔
- ⑮鹿児島：観覧車「アミュラン」

⑪広島：広島城

③新潟：新潟日報メディアシップ

⑩京都：東寺

②宮城：仙台スカイキャンドル

④埼玉：さいたまスーパーアリーナ

⑤東京：東京スカイツリー®

⑥神奈川：江の島シーキャンドル

⑦神奈川：平塚駅南口広場人魚噴水公園

⑨愛知：中部電力 MIRAI TOWER

⑧神奈川：小田原城



第 20 号のコンテンツ

- ◆ 9月の小児がん啓発ライトアップ
- ◆ 神経芽腫の新薬 医師主導治験で承認
- ◆ 臨床試験シリーズ「神経芽腫」



- ◆ 小児がん関連本の紹介
- ◆ ご寄付のお願い





シンボル東京スカイツリー®、あたたかな光を子どもたちへ

ゲストを招いての
点灯イベントも開催！

高さ634mをほこる東京スカイツリー®は、キャンペーンのシンボリック役割を担いました。ライティングカラーは「たくさん子どもたちが“わー！”と笑顔になってくれたら」とこの日のためにつくられた温かみのあるオリジナルゴールド。特別な思いは届いたようで、病室の窓から、または動画配信で点灯を見つめた子どもたちからは、拍手や歓声があがりました。

点灯イベントには、ゴールドの衣装でおなじみのシンガーソングライター・ピコ太郎さんや元SKE48のメンバーで乳がんを経験しているタレントの矢方美紀さんらのゲストが駆けつけ、小児がんを知ってもらおうとメッセージを発信しました。

タイトル協賛：第一生命保険株式会社
特別協賛：アフラック生命保険株式会社
特別協力：東京スカイツリータウン®、D・D・WAVE株式会社
協力：一般社団法人 Empower Children

もっと広く知って！

大きなツリーから小児がん患者さんをサポートしようという大きなメッセージが伝わってきますね。子どもを守らないで大人は何の仕事をするんだ！これを機にぜひ小児がんのことをもっと広く知っていただきたい。

ピコ太郎さんはこれまでも小児がん治療支援ライブなどで子どもたちを応援してくださっています♪



点灯式では、「ゴールドセプテンバー！」のかけ声を合図にスカイツリーがゴールドに。



シンガーソングライター：ピコ太郎さん

社会のご理解とご支援を

小児がんが治るようになったとしても、発症を予防することは難しい。これらさまざまな課題を解決していくためには医療界だけでなく、広く社会のご理解とご支援が必須です。



がんの子どもを守る会
：山下公輔理事長

仲間と支え合って

治療中は、自分と同じように闘病している仲間や友人とのコミュニケーションが支えでした。治療中でも楽しいことを見つけて誰かとつながり、支え合っていけたら。



タレント：矢方美紀さん
(がん経験者)

夜空に響く歌声♪

moumoon
のお二人は、小児がん患者支援ソング「My Hero～奇跡の唄～」(作詞：つんく、作曲：坂本龍一) など3曲を披露してくださいました♪



アーティスト：moumoon

小児がん克服後もフォローを

小児がんを克服した患者さんにも問題があり、長期の合併症をきちんとフォローアップするシステムが必要となります。医師、看護師ら医療従事者と患者さんらの「和」が永遠に続くことを祈っています。



JCCG：松本公一医師
国立成育医療研究センター小児がんセンター長

♡ 各地のライトアップ



9月9～15日 広島城

協賛：株式会社 村上農園

協力：広島県、広島市、広島大学病院

※広島大学病院とオンラインで結び、入院中の子どもたちの「点灯！」のかけ声を合図に点灯。広島城が金色に染まると、子どもたちや病棟スタッフから感嘆の声があがりました。



9月9日 さっぽろテレビ塔

協力：北海道大学病院、公益財団法人 がんの子どもを守る会北海道支部

「子どもたちは貴重なゴールド」 アメリカから世界へ

このキャンペーンは2015年に米国で始まり、世界に広がりました。「子どもたちは金（きん）のように貴重な宝物だ」という思いから、ゴールドが小児がん患者支援のシンボルカラーとなっています。ゴールドには、「小児がんと向き合っている子どもたちと、彼らに必要な医療・ケアと研究に輝かしい光を当てる」という意味もこめられています。

オールジャングループJCCG、昨年から準備

JCCGは医師を中心とした小児がん専門家で構成するオールジャパンの臨床研究グループです。2020年に国際小児がん学会からキャンペーンへの協力依頼を受け、全国組織であることを生かして各地域でのライトアップを準備してきました。

患者会、企業、多くの方々と手を携えて

新潟メディアシップのライトアップにはハートリンク共済（小児がん経験者の社会保障を支援）、京都の「東寺」は京都仏教会、広島城は村上農園…など、各地で支援の輪が広がり、東京スカイツリー®のライティングは小児がん治療支援ライブ開催経験のある一般社団法人Empower Children、小児がん患者支援に理解のある第一生命のサポートにより実現しました。患者会などと連携したゴールドセブテンパーキャンペーン推進委員会（国内に約10団体）の協力や、趣旨に賛同する企業や団体のご支援を得て、大きな啓発イベントとなりました。



9月9日

さいたまスーパーアリーナ

協力：埼玉県立小児医療センター

※病院入口のカリヨン（組み鐘）もゴールドに！



さいたまスーパーアリーナ

さいたまスーパーアリーナと埼玉県立小児医療センターは、歩行者デッキでつながっていて、徒歩約5分です。

埼玉県立小児医療センター

♡ 各地のライトアップ



9月1～9日 仙台スカイキャンドル

協力：株式会社仙台放送、宮城県立こども病院
※同病院では子どもたちがスカイツリーイベントの中継やピコ太郎さんの動画を楽しみました。



9月9日 佐賀メディカルセンタービル

協力：公益財団法人 佐賀県健康づくり財団、
公益財団法人 がんの子どもを守る会九州西支部



9月1、30日 鹿児島中央駅前観覧車 「アミュラン」

協力：かごしま難病小児慢性特定疾患を支援する会、
株式会社JR鹿児島シティ、
鹿児島大学病院
※鹿児島大学病院医師による講話、患者さんの交流会を予定していましたが緊急事態宣言の影響で中止となりました。



9月9日 東寺（教王護国寺）

協賛：一般財団法人 京都仏教会
協力：京都府立医科大学附属病院
※京都仏教会の働きかけと東寺のご協力により境内では小児がん啓発チラシが配布されました。



9月30日 稲佐山山頂電波塔3塔



協力：長崎市、
公益財団法人 がんの子どもを守る会九州西支部

in 名古屋

9月9、10日 中部電力 MIRAI TOWER

主催：特定非営利活動法人ぷくぷくばるーん

後援：愛知県・名古屋市など

※ぷくぷくばるーんがライトアップイベントを開催。細長い風船でゴールドリボンを作るバルーン教室、小児がん患者支援をテーマにしたトークセッション、応援メッセージの紹介など多彩なプログラムがオンラインで展開されました。



イベントを進行するぷくぷくばるーん運営代表の大竹由美子さん（左）とラジオパーソナリティつボイリオさん



小児がんの現状を説明する堀部敬三医師（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）



in 新潟

9月12日 新潟日報メディアシップ

主催：新潟日报社・新潟市民芸術文化会館

共催：認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト

協力：ハートリンク共済・新潟大学医歯学総合病院

※新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）でゴールドリボン小児がんチャリティーコンサート「吉田兄弟／レ・フレール スペシャルコラボコンサート2021」を開催。

「患児のきょうだいケア」は小児がんの重要なテーマのひとつです。三味線とピアノ、それぞれ兄弟が奏でる迫力ある演奏に会場は盛り上がりました。終演後にライトアップの案内があり、コンサート帰りに建物の両サイドに輝くゴールドを眺めた方もおられました。



吉田兄弟／レ・フレール
スペシャルコラボコンサート2021



in 北九州

9月9～11日 小倉城

協力：認定NPO法人にこスマ九州、北九州市、久留米大学病院

※小倉城をゴールドに照らすために、にこスマ九州メンバーが手作業でライトに金色のフィルムを装着。手作りのゴールドはひととき明るく輝きました。

また、全国の小児がん経験者約100名に、にこスマ九州からオリジナルゴールドリボングッズ（ストラップとピンバッジ）がプレゼントされました。



13個のライトに金色のフィルムを装着



プレゼントされたストラップとピンバッジ





9月18日 小田原城 協力：小田原市、湘南ベルマーレ



9月6～15日 平塚駅南口広場人魚噴水公園
協力：平塚市、湘南ベルマーレ



9月17～23日 江の島シーキャンドル
協力：江ノ島電鉄株式会社、湘南ベルマーレ

神奈川県3か所での
ライトアップは、湘南ベルマーレ
フットサルクラブのプレイヤーで、自身
もがんとの闘病をしながら小児がんの患
者さんやご家族をサポートする「フットサル
リボン」活動を続けていた久光重貴選手
(2020年12月に39歳で逝去)の
思いを継ぐイベント「ヒサと共に。
2021」の一環として実現
しました。



久光重貴選手

WHO Global Initiative for Childhood Cancer (WHO GICC) in Tokyo 2021

世界のすべてのがんの子どもを救おう

各方面の小児がん専門家が集結、シンポジウム開催

世界規模で小児がんについて考えるシンポジウム「世界のすべてのがんの子どもを救おう」（主催：小児がんまごころ機構、後援：JCCGなど）が、9月25日、国立がん研究センターからのオンラインで開催されました。

現在世界保健機関（WHO）は「2030年までに全世界の小児がんの治癒率を60%以上に」を目標に掲げています。この達成のために、おもにアジアでの治療の現状と課題について、Kathy Pritchard-Jones世界小児がん学会会長やAndre Iibawai世界保健機関代表、野田哲生国際対がん連合日本委員会委員長、小児科医でもある自見はなこ参議院議員、足立壮一JCCG理事長ら、さまざまなエキスパートがメッセージを発信しました。

今年3月アジアの小児がん専門医らで設立された「アジア小児血液・がん治療研究グループ」会長の中川原章医師は、カンボジアの腎臓がんの女の子（3歳）を日本の外科医チームと現地の外科医チームが合同で手術を行い救った実例を動画で紹介、クイズも取り入れながらアジアでは1年に約25万人の子どもたちが小児がんにかかっていることなどを伝え、「世界共通の小児がん啓発シンボルであるゴールドリボンを合言葉に、世界のみんなで手をつないで小児がんの治癒率を上げ、ケアを進めていきたい」と語りました。

クイズ1

小児がんは、全てのがんの中で、何%くらいを占めるとお考えですか

答え **A** 1%以下
B 5%
C 10%

クイズ3

発展途上国では、子どものがんはどの位助かる？

答え **A** 30%以下
B 約50%
C 約80%

小児がんは、どのくらい助かるの？

先進国では、約80%が治癒する！

アジア、アフリカ、南アメリカの発展途上国では、小児がんの治癒率はわずか0～30%！

世界の小児がんの死亡率
(WHO/IARC 推測値)
Lancet Oncology 2019

←シンポジウムの動画はこちらから

アジアの小児がんの課題を語る中川原章医師

子どもたちを笑顔に

Smile



Action

スマイルアクション

♪ 指先をゴールドに ♪ 国立がん研究センター中央病院



「ゴールドセプテMBERキャンペーン」では、「Smile Action～小児がんの子どもたちとご家族が輝かしい未来を“笑顔”で過ごせるように～」をテーマに、各地で子どもたちとの取り組みが展開されました。国立がん研究センター中央病院（東京都築地）では、子どもたちが家族や医師らとゴールドのネイルを楽しみました。



♪ お絵描きを楽しもう ♪ 国立成育医療研究センターなど小児がん拠点病院



9月のキャンペーンに合わせ、国内に15か所ある小児がん拠点病院へお絵描きセットが贈られました。自由帳は城南信用金庫、クレヨンが富国生命からのプレゼントです。コロナ禍で家族との面会時間が制限され、寂しい時間を過ごすことも増えた入院中の子どもたちに、楽しいお絵描きタイムが生まれました。



♡ 「金（きん）」からつながる支援 ♡



贈呈式の様子（富国生命本社）

このプレゼントのきっかけは、ゴールドセプテMBERキャンペーン推進委員会メンバーでもあるキャンサーネットジャパンの担当者が、城南信用金庫（信用金庫の全国ネットワークの事務局）に小児がん患者支援のシンボルカラーが「金色」であることを説明し、「名前に『金』のつく城南信用金庫さんにぜひご協力いただきたい」と打診したことです。同信金の川本恭治理事長が「『信金』だけに『親近』感がわいた」とユーモアを交えて快諾、付き合いのある富国生命にも声をかけ、自由帳とクレヨン計3000セットが贈られることになりました。

♡ これからもゴールドをシンボルに小児がんへのご理解・ご支援がひろがりますように…



医師主導治験による国内承認取得

小児がん用
抗がん剤で
国内初

神経芽腫の治療薬「ジヌツキシマブ」製造販売へ



大原薬品工業提供

このほど神経芽腫の治療薬として「ジヌツキシマブ（※抗GD2抗体）」が、厚生労働省が医薬品・医療機器などの製造・販売を認める「薬事承認」を受けました。ジヌツキシマブは世界で初めて神経芽腫に特化して開発された薬剤で、北米やヨーロッパでは標準治療薬として用いられています。

日本でも使えるようにするため、大阪市立総合医療センターの原純一医師を主任研究者に「医師主導治験」を実施し、国内では数十年ぶりに神経芽腫の新薬が承認されました。小児がん治療に使う抗がん剤で、「医師主導治験」による承認が得られたのは、国内初です。

※抗GD2抗体…神経芽腫細胞表面に多く存在するGD2と特異的に結合し、神経芽腫細胞を攻撃して破壊します。

※画像にある薬名「ユニツキシン」…米国での商品名。医薬品には、「一般名（成分名）」と「商品名（ブランド名）」があり、ジヌツキシマブが一般名、ユニツキシンが商品名にあたります。

このニュースのポイント！



神経芽腫の患者さんにとって待望の薬、ようやく実用化

採算面で開発されにくい子ども用の薬、医師自らが実用化に向け治験を実施

小児がんの新薬開発が難しい背景…



新薬開発には時間とお金がかかる



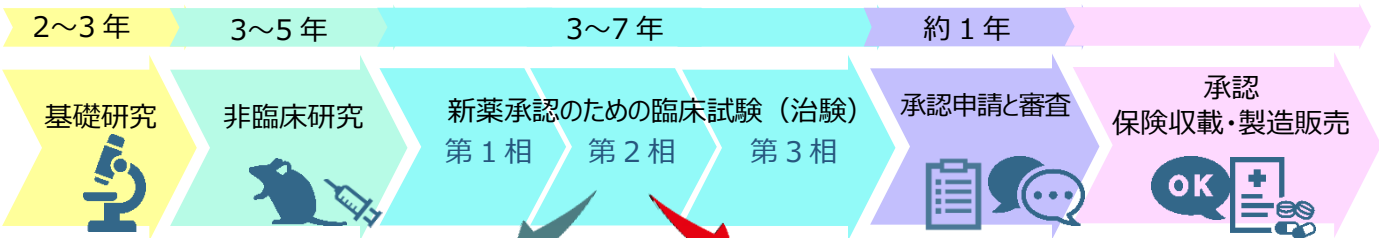
開発費が数十億になることも…

小児がんはそれぞれの患者さんの数が少ないため、企業は採算がとれない

※欧米では、原則として小児用医薬品の開発が法律で義務付けられており、開発が進んでいます。



新しい薬が「薬事承認」を受け、患者さんが使えるようになるまでには10年以上かかります。新薬承認までの一般的なプロセスを紹介します。



臨床試験には、製薬会社主導の「企業治験」と、医師自らが実施する「医師主導治験」があります。



採算性やリスクも検討



必要性
必要かどうかを重視

医師主導治験は、企業が積極的に開発しない医薬品の薬事承認も進むよう2003年に始まった制度です。「外国では有効性・安全性が確立されているが国内未承認」「小児への適切な用法用量がはっきりしていない」「適応外使用が一般的となっている」等の医薬品・医療機器を、患者さんに適切に使えるようにすることが目的です。



今回の医師主導治験は2011年に着手、9年がかりで実用化されました。医師は研究費を集め、製薬会社との交渉も担い、大原薬品工業の他、協和キリン、シオノギ製薬からも薬剤提供を受けました。

医師主導といえども製薬会社との協力体制は必須で、新薬の製造販売は大原薬品工業が請け負います。

「ジヌツキシマブ」の薬事承認の背景や意義について、研究代表者の原純一医師にお話をうかがいます。



神経芽腫の患者さんへ免疫療法で治せる薬を



大阪市立総合医療センター
副院長兼がん医療支援センター長
原 純一医師

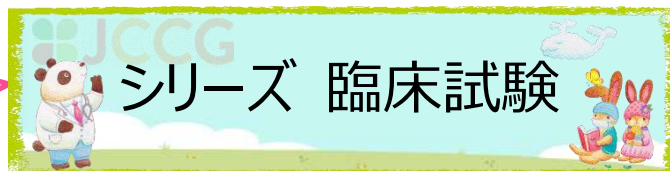
神経芽腫は、小児がんの中では白血病、脳腫瘍に次いで多く発生します。小児がんの中では多数派と言えますが、1年間にかかる患者さんは約160人で患者数がごく少ない「希少疾患」とされています。そのうち、ジヌツキシマブの対象となる転移のある「高リスク」の患者さんはその半分以下です。採算性の面などからなかなか企業治験は見込めないため、当時、国立がん研究センターにいた河本博医師らとともに医師主導治験で承認を目指しました。

神経芽腫の治療の課題は、転移のある治りにくいタイプの患者さんをどう救っていくかというところにあります。今回実用化が決まったジヌツキシマブは、過去20年以上厳しいままだったこのような患者さんの生存率を上げることができる薬です。

ジヌツキシマブは「抗GD2抗体」という「免疫療法」の治療薬です。神経芽腫細胞表面にあるGD2という糖脂質に働きかける「抗GD2抗体」と、免疫を活性化する薬を一緒に使い、がん細胞を攻撃します。大きな晩期合併症がなく、患者さんへの負担も少ないことが特徴です。

患者さんにとって極力負担の少ない治療で「生存率の向上」と「晩期合併症軽減」の両方の目的を達成するには、免疫の力で治す薬剤の開発が必要です。今後もこのような免疫療法の開発が進むことが望まれます。

今回は
神経芽腫の
「臨床試験」を
紹介します。



JCCGのHPでは、
随時実施中の臨
床試験を紹介して
います。→

<http://jccg.jp/about/c>



clinicalresearch_list/

～JN-H-20～

Japan Neuroblastoma High-risk

J: 日本 N: 神経芽腫 H: 高リスク群の 20: 2020年に計画開始

「高リスク群」
とは、治りにくい患者
さんのことです。

この臨床試験を説明して下さる高橋義行先生はどんなドクターなのでしょう。
最初にそのお人柄に迫ってみます。

「あったらいいな！」独創力の子どもの時代

両親からもらった「義行」という名前をとても気に入っています。漢字を知り始めたころに自分で意味を調べ、「義」は正義の義だから「義行」は正義を行うということなのだ解釈しました。以来、「人のためになる正しいこと、役に立つようなことをしたい」という気持ちを持ち続けています。

幼いころからまじめな性格で、例えば一度ベランダに出たことで叱られると、二度とベランダには近づかないようなところがありました。

そうした堅さの一方で、頭には柔軟なひらめきがあふれていました。小学生時代のノートには、自動で掃除をしてくれる「お掃除ロボット」や、母親の手助けをする「お手伝いロボット」など、オリジナルアイデアがたくさん書き留められています。実際に作ってみることも大好きで、合体ロボットを木材で製作しては、それぞれのパーツをくっつけたり分解したり。まだ世の中にはない新しいものを作りたいという気持ちが強い子どもでした。

教師？ 医師??

高校生になり、将来の職業を考え始めた時、「人のためになる」という点でまず思い浮かんだのは教師でした。ただ当時は「金八先生」ブームでまわり中から「学校の先生になりたい」との声が聞こえ、「みんながなるのなら自分は別の道でもよいのかな」と思うようになりました。次に浮かんだのが医師です。どの仕事でも人の役に立つはずで多くの道があったのですが、



名古屋大学小児科
JCCG 神経芽腫委員会
高橋 義行医師

子どもが好きだったこともあり、「医師になって子どもたちの役に立てたら」と進路を決めました。

父親との別れと家族の応援

医学部に向けて勉強に集中し始めたころ、父親に胃がんが見つかります。しかし家族は受験への影響を心配し、受験生本人には伝えなかったのです。知らされたのはいよいよ病状が厳しくなってからで、その数か月後に父親は亡くなりました。かなりつらい精神状態でしたし、母子家庭になる家計を思うと卒業まで6年かかる医学部への進学に迷いが生じました。その時「行きたい医学部に行った方がよい」と後押ししてくれたのは母親です。最初母親が父親の病気のことを黙っていたのも医学への夢をあきらめてほしくないとの配慮からでした。家族からの大きな応援に「それなら」と勉強を続け、志望していた名古屋大学に合格できました。名古屋大学に学費免除の制度があったことにも救われました。

がんに関わっていく決意

大学合格を直接父親に報告できないのは無念でしたが、「父のかたきをとってやろう」「なんらかの形でがんに関わっていきたい」という気持ちが芽生えました。もともと教師も考えたくらいに子どもは好きだったため、自然と小児がんを治療する道に進みました。

子どもたち自身の力

お子さんの治療に携わる中で、子どもたちのこちらの想像を超える力にはいつも驚かされます。難しい状況であっても、子どもたちは臓器が強く体力もあるため治療に耐え抜き、奇跡的に助かってくれることがあるのです。医師の治療だけではなく、患者さんご自身が力を発揮してくれて治癒につながっていると実感できるのはやりがいです。また、高齢者の場合は「これ以上はがんばりすぎなくてもよい」という場面もあり得ますが未来の長いお子さんはそうはなりにくく、最後の最後までなんとか救命するということに全力を尽くせるのも小児医療の特徴であり、張り合いです。

どの命も救うために新しい治療を

「どのお子さんにもベストの治療を」と努めています。既存の方法では治せない患者さんを救うには新しい治療が必要です。国際学会で最新の知識を得たり、海外のエキスパートと直接会話をしたり、常に情報を集めています。大学病院にいるため新規治療法の開発はしやすく、得た知識からアイデアをふくらませ、さらにいくつかのアイデアを組み合わせたものしながらよりよい治療を検討しています。理論上は効果のありそうな治療も、患者さんにとって困ったことが起こらないか、実際に大丈夫かどうかを確かめながら治療研究に取り組んでいます。

JN-H-20 はどんな臨床試験？

高橋先生にポイントを教えていただきました。



ポイント1



これまで治すことの難しかった神経芽腫の患者さんを、免疫療法で救うことが期待できます。

これまでがんの治療は、①化学療法（抗がん剤）、②放射線治療、③外科療法（手術で摘出）の3本柱で行っていました。支持療法（病気にともなう症状や、治療による副作用・合併症などを予防、軽減するための治療やケアのこと）の意義も大きく、抗生剤やカビの薬がそろい、感染症を防げるようになってきています。

それでも救うことが難しい患者さんの治療として確立されたのが第4の治療「がん免疫療法」です。免疫とはわたしたちの体を正常な状態に保つためのしくみで、そのしくみを使って体の敵となる腫瘍を破壊するのが免疫療法です。

神経芽腫の患者さんのうち6～7割の方は従来の治療の組み合わせでは治すことが難しく、どのように治療していくかが課題でした。そこで「がん免疫療法」を研究し、新しい方法が開発されました。

（※p8で紹介した「ジヌツキシマブ」も免疫療法の薬です。）

ポイント2



さい帯血を使う治療です。



この試験ではさい帯血の移植を行います。さい帯血とは、妊娠中の母親と赤ちゃんを結ぶへその緒（さい帯）と胎盤の中に含まれる血液のことです。ここには赤血球、白血球、血小板といった血液細胞をつくり出す造血幹細胞がたくさん含まれています。骨髄性白血病など血液の病気の治療にはすでに使われ成果が知られていますが、小児の固形のがんにさい帯血を使う多施設共同臨床試験は国内初です。

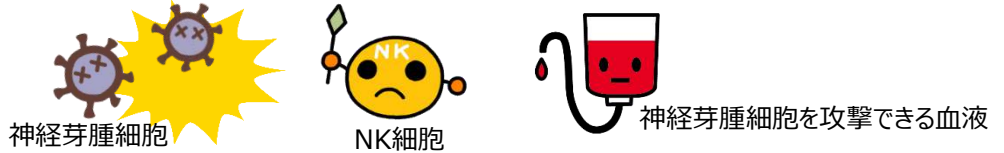
ポイント3



神経芽腫を攻撃し、破壊できるタイプのさい帯血を持つドナーさんからの移植です。

さい帯血移植で「患者さんの神経芽腫細胞を攻撃し、破壊できる」血液に取り換え、神経芽腫を治療します。血液には「NK細胞」（ナチュラルキラー細胞）と呼ばれる細胞があり、全身をパトロールしています。ナチュラルキラーという言葉通り自然に体に備わっているしくみで、がん細胞などの異物を見つけると攻撃して破壊します。ただ、このように攻撃力のある細胞がぐるぐると体を回っていると危ないため、NK細胞には「自分だけは攻撃するな」という命令が入っています。そのせいか、神経芽腫の患者さんは自分自身では神経芽腫細胞を攻撃できないのです。

そこで、神経芽腫の細胞を攻撃できるNK細胞を持つドナーさんからさい帯血を移植することで神経芽腫を治療するという方針が生まれました。



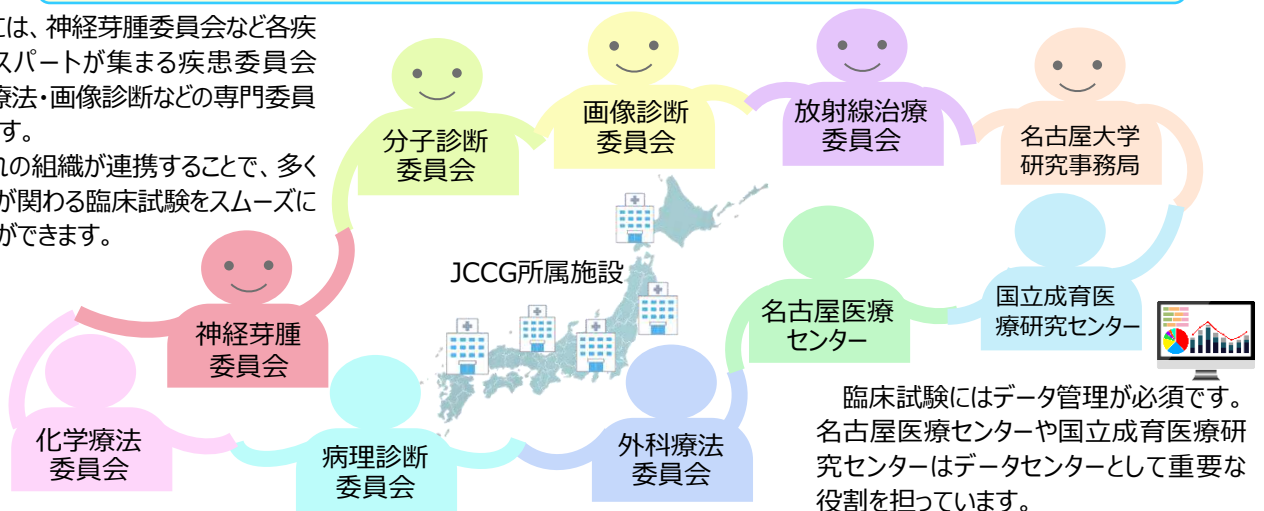
ポイント4



オールジャパン体制で小児がんの各専門家がそろうJCCGならではの臨床試験です。

JCCGには、神経芽腫委員会など各疾患のエキスパートが集まる疾患委員会や、外科療法・画像診断などの専門委員会があります。

それぞれの組織が連携することで、多くの診療科が関わる臨床試験をスムーズに進めることができます。



臨床試験にはデータ管理が必須です。名古屋医療センターや国立成育医療研究センターはデータセンターとして重要な役割を担っています。

～ 正式名称 ～

「高リスク神経芽腫に対する化学療法の追加及び予後不良群に対するKIRリガンド不一致同種臍帯血移植による層別化治療の多施設共同前向き臨床試験（JN-H-20）」

少し専門的な話ですが… 「KIR」とはNK細胞の表面にある鍵穴のようなもので、「リガンド」は鍵の役割を果たします。これがマッチするか不一致かが、「細胞攻撃命令」のオン・オフに関わるのです。今回はKIRリガンドの不一致が神経芽腫細胞を攻撃するシグナルとなります。

JN-H-20臨床試験のまとめ



神経芽腫細胞はヒトの免疫細胞のうちナチュラルキラー細胞（NK細胞）に傷害されやすいことが知られていましたが、NK細胞が攻撃をするかしないかは、NK細胞表面にある「KIR」と呼ばれる鍵穴のような受信機に「攻撃するな」というシグナルが入るかどうかで決まります。このシグナルはNK細胞の鍵穴に対する鍵（リガンド）の役割をするHLAという分子の一部であり、KIRとそのリガンドが不一致となるNK細胞を持っている患者さんでは、そのようなNK細胞を持っていない患者さんに比べて神経芽腫の予後が良いことが報告されました。JN-H-20臨床試験は、KIRとリガンドが不一致になって神経芽腫細胞を効率よく傷害してくれるNK細胞を持つドナーさんのさい帯血を移植する治療法が、安全に実施できて神経芽腫の再発を減らせるかどうかを確かめる試験です。NK細胞を利用した「免疫療法」なので、GD2抗体をJN-H-20試験に続いて行うことが可能になっています。GD2抗体と一緒にさらに免疫の力で治す治療法の開発が進むかもしれません。



本の紹介



「小児白血病の世界
病態の解明から治療まで」

著者：真部 淳

中外医学社



JCCG
ALL 委員会
北海道大学病院
真部 淳医師

白血病の歴史や治療の実際・遺伝に関する最新の報告まで、小児白血病の世界をわかりやすくまとめた1冊。研修医時代の率直な気持ちや世界各地のエキスパートとの交流など著者の経験談も豊富で、患者さん・専門家両者にとって興味深い内容です。

「小児がん治療後の
長期フォローアップガイド」

JCCG 長期フォローアップ
委員会、長期フォローア
ップガイドライン作成ワー
キンググループ

責任編集：前田尚子

クリニコ出版



JCCG
長期フォローアップ委員会
国立病院機構
名古屋医療センター
前田 尚子医師



小児がん経験者の晩期合併症は生命に関わる重篤な例も。患者さんがどこにいても適切なフォローアップが受けられるよう、JCCG 長期フォローアップ委員会が医師、看護師、心理士、ソーシャルワーカーなど多職種からなる執筆陣で、科学的根拠に基づくガイドにまとめました。

ご寄付のお願い



小児がんの子どもたちのサポートにご協力ください

1 カ月あたり 1000 円、年間 12000 円のご寄付で、
がんの子ども 1 人の治療支援が可能になります。

「未来の新治療開発」（バイオバンクへの細胞保存）、「正確な診断」（中央診断システムの維持）、「大人になるまで見届け」（長期フォローアップ手帳の確実な配布と運用）。そのために、小児がんの患者さん 1 人に年間約 12000 円が必要です。

JCCG は、毎年新たに発症する 2500 人の子どもの命を守ろうと努力しています。

一人でも多くの子どもたちに、「治った！」
という明るい未来をプレゼントするために、
どうかご協力をお願い申し上げます。



ご寄付はこちらへお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行 郵便振り込み
口座記号 00850-5 口座番号 153506
加入者名 NPO JCCG

JCCG HP より、クレジットカード寄付も可能です

JCCG ホームページ

インターネットでのご寄付

クレジットカードで寄付



JCCG 事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦 3 丁目 6 番 35 号 WAKITA ビル 8 階

TEL : 052-734-2182 FAX : 052-734-2183 E-mail : friend@jccg.jp



Special Thanks!

イラスト：かーとーゆーこ (<http://katoyuko.sakura.ne.jp/>) コピーライティング：石黒 佐和子
JCCG 自動販売機デザイン：有限会社 Sadatomo Kawamura Design

JCCG ニュースレターは、ご寄付をいただいた皆様や以下の支援団体様のご協力のおかげで発行されております

